



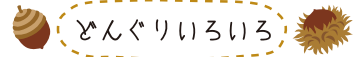
食欲の秋です！
(9/24 竹クラフト講座にて)

県民の森 だより 10月号 2017

発行

宮城県 県民の森管理事務所 TEL&FAX 022-255-8801
〒981-0121 宮城県宮城郡利府町神谷沢字菅野沢 41
(指定管理者) 特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会

入園料：無料
利用時間：4月～10月/9時～16時30分
11月～3月/9時～16時



猛毒キノコ カエンタケに注意



「カエンタケ」はその名があらわす通り、全体がまるで燃え上がる炎のように赤いキノコで、毒性は非常に強く、毒キノコの中で最も危険とも言われます。ほんの3g誤食しただけで死に至り、また、触れるだけで皮膚の炎症をひき起こします。もし園内で発見した場合には、絶対に触れないですぐに管理事務所までご連絡下さい。



引き続き・ツキノワグマとスズメバチにも注意

園内と隣接地にて親子グマの目撃情報が相次いでおります。早朝・夕方に限らず日中も目撃されておりますので、園内散策の際は単独行動はなるべく避け、熊鈴やラジオを携帯するなどして、十分にご注意下さい。

また、スズメバチの活動も活発化し、攻撃性が強くなる時期です。姿や翅音の恐怖心から悲鳴を上げて逃げたくてしまいますが(特に子供たち)、ハチは大きな音や素早い動きに敏感です。頭を隠してじっとしゃがんでハチが去るのを待ちましょう。万が一一大群に襲われた場合は、タオルなどで振り払って急いで逃げて、管理事務所へご連絡下さい



※オオスズメバチは土中に巣を作るため、散策中に気づかず刺激を与えてしまう場合もあります。注意！



コナラ クヌギ
一番よく見られます まんまるどんぐり



カシワ マテバシイ
ふさふさぼうし 渋みがなく甘い



シラカシ
しましまぼうし

中央記念館内に
実物が展示されて
おりますので
ご覧下さいませ

今月のけんみんのもり写真館 スペース広め スタッフが見つけたしぜんのひとコマ バージョン

県民の森名木紹介 vol.35 シラカバ



コナラ(ブナ科) 小櫛
別名 ナラ、ハハツ

名前は小さいナラの意。宮城県の里山を支配する雑木林の重要な構成種です。近年、カシノナガキクイムシが媒介するナラ菌により、集団的に枯損する「ナラ枯れ」が発生しており、被害木から悲鳴が聞こえてくるようです。(駒野)



サワフタギ(ハイノキ科)
ルリミノウシコロシ、ニシゴリ

名前は枝が密生し沢を塞ぐので「沢蓋木」です。ルリミノウシコロシは果実が瑠璃色で材が折れにくい事からです。瑠璃色の宝石のような果実が熟しています。足を止め思わず見とれるほどの美しさです。(駒野)



前号で紹介した1号幹線沿いの四阿の周囲は、シラカバの植林区でもあります。県内には、この木の自然分布は無いとの事ですが、真っ白で美しい木肌が魅力?のため植えられたものでしょう。各地にあるシラカバの美しい純林、とまでは行かないまでも、他の広葉樹に混じり点在する木々は15m程の大木に成長しており、それなりの存在感を示しています。(工藤)



キバナアキギリ(シロ科)
黄花秋桐

名前は花がキリに似て、秋に咲く花が黄色なので、黄花秋桐です。昆虫が蜜を吸いに花の中にもぐり込むとき、てこの原理で雄しべが下りてきて、昆虫の背に花粉を付ける仕組みに感激です。花の少ないこの時期、この黄色の花が咲くと秋を感じます。(駒野)



ナギナタタケ 長刀茸
(シロソウメンタケ科)

カエンタケよりも細長く鮮やかな黄色をしたキノコで、「長刀茸」の名前の通り、全体は刀状の形をしています。先端部分は古くなると褐色に変色していきます。同じ形状で鮮やかな朱色のものはベニナギナタタケです。(入岡)



生きてそのまま糖漬けにされたようなカミキリムシですが、これはポーベリア菌という昆虫病原糸状菌の仕業です。昆虫はこの菌に冒されると、水分を奪われてミイラのように死んでしまいます。何とも気の毒です。(入岡)



ガマズミの若い実に、「ガマズミミケフシタマバエ」が卵を産み付けると、その刺激で写真のように実がふさふさに変形します。赤い果実は野鳥たちの目を引きませんが、毛に覆われた虫こぶは、鳥のエサにならずに生き残ることができま

イベントのスケジュールなどは裏面「10月・11月のイベント情報」をご覧ください